

訂正とお詫び

下記の図書について、内容の一部に訂正がございます。深くお詫び申し上げますとともに、以下のように訂正いたします。

■ 2025 年度版 1 級電気通信工事施工管理技士 第二次検定 テキスト&過去問題集

頁	該当箇所	誤	正
196	同軸ケーブルの技術的内容	同軸ケーブルの技術的内容 ① コアの屈折率を滑らかに分布させた光ファイバで、SI型で見られた伝搬信号の歪みを改善したものである。 ② 光ファイバ内で伝搬距離の異なるモードが複数存在しているが、最短距離を進むモードは屈折率の高いコア中心を通るので光の速度が遅く、遠回りするモードは屈折率の低い部分を通るため光の速度が速くなり、相対的にどのモードの光も同じ速度で伝搬することになる。 ③ シングルモードと比較して伝搬損失が大きいが、安価であるため、LANなどの近距離通信用として広く使用されている。	同軸ケーブルの技術的内容 ① 内部導体を同心円の外部導体で取り囲み、内部導体と外部導体の間に絶縁物を挟み込んだ構造である。同軸ケーブルの特性インピーダンスは、内部導体の外径と、外部導体の内径の比を変えると変化する。 ② 内部導体と外部導体の絶縁に使用されている誘電体によって信号の損失や位相の遅れを伴うので、決められた部品番号で指定された長さのものを使用する。同軸ケーブル中の伝搬速度が遅くなる割合を示す指標となる短縮率は、絶縁物の種類によって異なり、例えばポリエチレンの場合で0.67程度である。

以上